

今日のトピック 大納会の日本株市場

年末年始の休暇を前に、ギリシャ、ロシア関連リスクを回避

ポイント1 ギリシャ、ロシアを懸念

3年連続の年間高値引けならず

■今年の大納会を迎えた12月30日、日経平均株価は前日比▲279.07円の17,450.77円と下落しました。29日に行われたギリシャ大統領選挙の3回目の投票で与党候補が必要な投票数を得られなかったことから、来月の総選挙実施が決まり、政局が不透明となったことが株価下落の主因と見られます。ギリシャでは、財政緊縮により景気が低迷する中、反緊縮派が優勢となり、債務問題が再燃する懸念が高まっています。

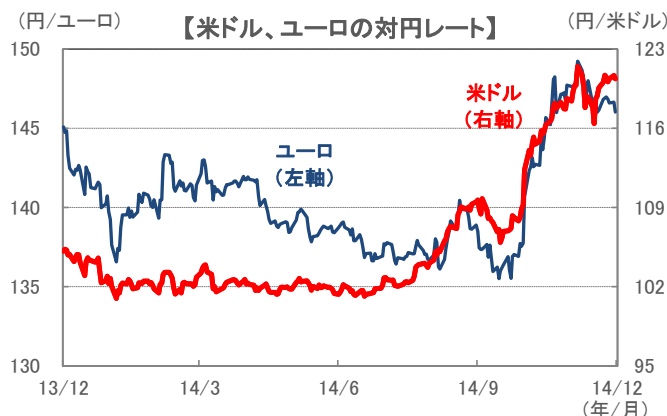
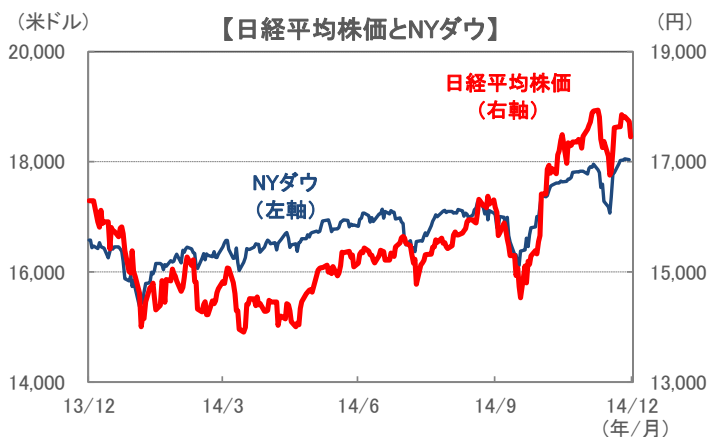
■また29日、ロシア経済省は11月のGDPが前年同月比マイナスになったと発表しました。これをきっかけにロシアルーブルが対米ドルで大幅に下落したこともリスク回避の動きを強めました。

ポイント2 ユーロは対米ドルで約2年5カ月ぶりの安値

対円では影響が限定的

■為替市場では、ユーロが対米ドルで約2年5カ月ぶりの安値に下落しました。ギリシャの政情の不透明感に加え、ロシア経済混迷のユーロ圏景気への影響が懸念されたと見られます。

■一方、ユーロ、米ドルの対円レートは、若干円高方向に振れたものの、これまでのところ大きな動きは窺われません。



(注) データの期間は2013年12月30日～2014年12月30日。
NYダウは2014年12月29日まで。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 円安による企業業績の上方修正と景気対策の効果に期待

■日米の金融政策の方向性の違いが鮮明となり、円安圧力は残りそうです。円安は、急激な場合は消費や投資への影響が懸念されますが、輸出企業の業績改善などを通じて全体としてはプラスとの見方が優勢です。円安による企業業績拡大、賃金増加、消費拡大への好循環が期待されます。

■日本では、消費税増税後の消費の回復が弱く、物価の見通しが下振れています。日銀の金融緩和拡充と政府の景気対策の効果により景気が上向くことが期待されます。年明けの株式市場は、リスク要因は残るものの、景気と企業業績に注目により集まる展開となることが見込まれます。

ここも チェック!

2014年12月29日 2014年の振り返り(世界の株式市場) 米国株式は史上最高値を更新
2014年12月22日 2015年の日本経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。